

# 令和2年度第2回 岡山県スポーツ推進審議会の議事概要

## 【開催概要】

- 日 時 令和3年2月15日（月）14:30～16:30
- 会 場 ピュアリティまきび 2F孔雀の間（岡山市北区下石井2-6-41）
- 出席者 <委員（五十音順）>
  - 米谷会長、三村副会長、赤木委員、居原田委員、上田委員、坂本委員、
  - 泉水委員、長尾委員、松井委員、松本委員、山田委員
  - ※委員15人中11人の出席であり、本審議会は成立
  - ※議事に先駆けて、委員の互選により、全会一致で米谷委員が会長、
  - 三村委員が副会長に選出された。
- <事務局>
  - 環境文化部：古南部長、安東文化スポーツ振興監、
  - 有田マラソン事務局参与、宮野スポーツ振興課長
  - 教 育 庁：山本保健体育課長

## 1 開 会

## 2 あいさつ

### ○環境文化部長あいさつ

- ・委員改選によりご就任いただいた皆さまに御礼申し上げます。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響は、未だスポーツ界にも大きな影響を及ぼしているが、各種スポーツ大会も以前のように一律に中止されるのではなく、それぞれの地域の感染状況やスポーツの特性等から個別に開催が判断されており、フェーズが移行している状況にある。
- ・こうした難しい状況で開催された春高バレーでの就実高校の優勝や、全日本高校女子サッカー選手権での作陽高校の準優勝、全米女子オープンゴルフにおける渋野日向子選手の健闘という明るいニュースは、コロナ禍で閉塞している生活に元気と勇気を与えてくれた。
- ・今後とも、スポーツの力で地域を元気づけられるよう一層のスポーツ振興に取り組んで参りたい。

### 3 議 事

※資料に沿ってまとめているため、必ずしも発言順ではない。

#### (1) 令和3年度スポーツの推進に係る主な事業について

##### 資料1 P.1~10

#### ■事務局説明（スポーツ振興課長、保健体育課長）

- ・資料に沿って説明

#### ■質疑

##### ①「ライフステージに応じた運動・スポーツ活動の促進」(P2)について (委員)

・「総合型地域スポーツクラブ（市町村等）を通じて」とあるが、総合型地域スポーツクラブの中には市町村との連携がうまくできていないクラブもあり、県からの情報が届かないことがある。全てのクラブに情報周知が図られるようお願いしたい。

(スポーツ振興課長)

・総合型地域スポーツクラブと市町村との連携については、濃淡があることは承知している。情報提供については市町村のほかに、総合型地域スポーツクラブ協議会を通じて行うなど、しっかりと対応して参りたい。

(委員)

・今年度はコロナで運動もしにくい状況が起きていると思うが、シニア層へのアプローチはどのように行っていくのか。

(スポーツ振興課長)

・高齢者はコロナによる重症化リスクがあるため、例年どおりのアプローチは難しい状況にある。

・令和3年度は日本スポーツマスターズの岡山大会が開催される。大会参加者はシニアというよりミドル層になるが、付随した催しを通じて、運動のきっかけづくりや、運動の場の提供といった働きかけを行って参りたい。

・また、オリ・パラ開催をきっかけとしたスポーツへの興味や意欲の向上を図っていきたいと考えている。

(委員)

・高齢者は健康維持に運動が大事である。シニア層へ運動できる場等の情報提供をお願いしたい。

(スポーツ振興課長)

・県ではデジタル化を推進しており、スポーツナビ（HP）を通じて情報発信を

行っているが、一方で、先日開催されたリベッツやトライフープの県民応援デーでは新聞に情報が掲載された日の反響は大きく、紙媒体によるアナログでの情報発信の有効性も再認識したところである。高齢者に、しっかりと届く形での情報提供を検討して参りたい。

②「体育授業スペシャルサポーター派遣事業（新規）」（P6）について  
（委員）

- ・外部人材はどういった団体から確保することを想定しているか。
- ・どのくらいの規模でどの程度の謝金を想定しているか。

（保健体育課長）

- ・例えば、技術指導のプロである、スポーツクラブのインストラクターに依頼することを想定している。ほかには、教師を目指している教育学部の学生なども考えられる。
- ・全体で30校、1つの学校には30時間程度の規模であり、謝金は1時間あたり1,600円程度を予定している。

（委員）

- ・ほかに、退職後の教員など、OBの活用も検討してはいかがか。

（保健体育課長）

- ・先輩である元教員から若い現任教員にノウハウを継承していくよい機会にもなるため、御意見のとおり検討して参りたい。

③「体力アップ・マイベストチャレンジ！（拡充）」（P6）、「方針実践モデル校事業（拡充）」（P7）について

（委員）

- ・実践内容に「ライトスポーツ」を追加するのはよい取組だ。小さいときから体を動かす喜びを経験していないと、高齢になってからはできない。
- ・健康を維持する体力づくりのためにもスポーツは必要だが、子どもには遊びの要素が必要である。子どもがスポーツに楽しみを見いだせるよう、その子自身が持つポテンシャルを引き出せるような仕組みや、まぐれでもいいから勝つ喜びの経験など得られるよう取り組んで欲しい。

（保健体育課長）

- ・P6にある「チャレンジランキング」等3つの事業は、まさに、御意見のような、運動に対するきっかけ作りを目指して取り組んでいるものである。
- ・岡山県では独自の取組として、新体力テストの上位層（約1割）にAバッジを交付してきたが、体力アップ・マイベストチャレンジでは、自分自身の記録更新者にバッジを交付するもので、去年の自分より「できた」という達成感に繋げる取組である。今年度は3～4割の子どもにバッジを交付した。

- ・いきいき岡山っ子☆運動習慣カードについては、さらにハードルを下げ、運動に取り組むことでバッジがもらえるものとしている。
- ・また、方針実践モデル校事業にライトスポーツを追加したのは、運動部活動が、競技力向上を目指すのみではなく、運動の楽しみを知るきっかけとなることを目指したものである。
- ・こうした事業を通じて、引き続き、子どもたちの運動習慣づくりに取り組んで参りたい。

#### ④「高等学校運動部活動支援事業（拡充）」（P7）について

（委員）

- ・環境整備面でのサポートとは、備品購入の支援も含まれるか。

（保健体育課長）

- ・備品もあれば器具用具もある。個人負担や学校単体では整備しづらい器具用具等について、高体連と協力しながら整備していく予定である。

#### ⑤「地域部活動推進事業（新規）」（P7）について

（委員）

- ・先日、日本スポーツ協会から、これに関する資料をもらったところである。それによると、令和5年度から、総合型地域スポーツクラブとスポーツ少年団、学校の部活動が一体となって地域スポーツクラブとして活動することを目指すであった。そのためには、市町村のスポーツ担当課がしっかりと趣旨を理解して、組織として一体的に取り組んでいくことが非常に重要と感じるが、どのように進めていくのか。

（保健体育課長）

- ・昨年9月に「休日の部活動を学校から切り離して地域で行っていく」という考え方が国から示された。この背景には、学校の働き方改革が進まないのは、部活動がその一因となっている問題がある。
- ・持続可能な部活動と働き方改革を両立させるため、令和5年度以降、段階的に部活動改革が実施されるが、御意見のとおり、市町村との連携が重要になってくる。県と市町村が一体となって事業に取り組みたいと考えている。
- ・実践研究については、全国で、各県2箇所ずつモデル事業に取り組む予定になっており、岡山県でも、意欲のある市町村の選定を進めているところである。そこで得られた研究成果は、他の市町村へと横展開して参りたい。

## (2) 令和3年度スポーツ団体への補助金について

### 資料1 P. 11~13

#### ■事務局説明（スポーツ振興課長）

- ・資料に沿って説明

#### ■質疑

##### ①「晴れの国トップアスリートの派遣」（P12）について

（委員）

- ・これまで、ファジアーノやシーガルズから選手等を派遣していた事業だが、新しく参入したリベッツやトライフープもこの事業を実施するのか。

（スポーツ振興課長）

- ・いずれも実施する。

##### ②「オリ・パラ関連新型コロナ対策支援事業」（P13）について

（委員）

- ・コロナ対策とは具体的にどのような対策を実施するのか。選手主体となる観点で、本当に必要なものが検討されたのかお伺いしたい。

（スポーツ振興課長）

- ・当該事業は、国の大会組織委員会の指示に基づいて実施するものである。
- ・具体的には、事前キャンプの際の宿泊場所について、三密を避けるための広い部屋を確保したり、移動の際に一般客と接することがないように、間の席を買い取るための費用を補助するものである。
- ・また、市町村等への補助金交付以外にも、携わるスタッフのPCR検査も予定している。
- ・コロナ対策はここまでやれば絶対大丈夫、という確実なものはないが、安心を得られるよう、できる限りの準備を行って参りたい。

##### ③補助金全般について

（委員）

- ・コロナの影響による税収減から、県の財政は厳しい状況と思われるが、補助金予算が前年度と比べてどうか、また、今後の見通しなどお伺いしたい。

（スポーツ振興課長）

- ・令和3年度の補助金予算については、微増、微減はあったものの、大きな変化はない。
- ・来年度の当初予算要求が発表されたばかりであり、それ以降の県財政の見通しはまだ不透明な部分があるが、今後とも、スポーツ推進に必要な予算が確保されるよう適切に対応して参りたい。

## 4 フリーディスカッション **資料2**

### ■事務局説明（スポーツ振興課長）

- ・昨年度から実施している。結論や方向性を絞るものではなく、多角的な意見をいただき、スポーツ推進計画を進めるにあたり参考にさせていただくものである。施策展開の工夫及び事業の立案等に反映させたい。
- ・今回のテーマは第1回と同じであるが、あらゆるスポーツ活動を停止していた状況から半年経過し、感染防止策を施しながらスポーツ活動を実施する大会もあるなど、フェーズが変わってきているため、改めて御意見などいただければと考えている。

### ■フリーディスカッション

（会長）

- ・事務局の説明にあったとおり、今回は、大会開催の事例などを踏まえた議論ができると思われるため、新型コロナウイルス感染症の影響下でのスポーツ活動のあり方について現状や課題についてお気軽にご発言いただきたい。

（委員）

- ・生涯スポーツ及び地域スポーツを担うスポーツ推進委員は全国に5万人あまり、岡山県では928人（昨年度）いるが、その活動にはコロナの影響をもろに受けた。
- ・コロナの第一波の際には、子ども達や高齢者に対して情報発信が全く行えなかったことを反省し、第二派の際には、一例になるが、玉野市のスポーツ推進委員が椅子に座ってできる運動を紹介する動画を作成し、公民館で流したり、Youtube やCATV で発信する、という試みを行った。
- ・対面コミュニケーションが減り、事業自体が中止、縮小しているが、全てはできないにしても、いかに事業を継続するか、どうすればできるかを考えなければならぬ。そのためには、まず、コロナについての正確な情報を学習することが大切である。行政と連携しながら、新しい生活様式を踏まえて、事業を推進して行けたらと考えている。

（委員）

- ・消毒など、ここまで実施すれば大丈夫、という基準はなく、また、大会中止の基準も様々で、判断が難しいと思うが、実際に大会等を開催された事例の中で、何かご助言などあれば教えていただきたい。4月以降の大会開催の参考にさせていただきたい。

(委員)

- ・中学校の大会について紹介させていただくと、夏の全国大会等は中止となったが、3年生の最後の活躍の場として、ブロック単位という小規模なものではあるが、感染防止策を講じながら代替大会を開催した。
- ・11月には、密を避けられない一部の競技を除いてであるが、会場分散、男女別の開催、無観客という対策を講じて、県の秋季大会を実施した。
- ・駅伝については、全国大会の中止は決まっていたものの、生徒のことを考え、県大会は実施し、マスカット球場周回コースで、保護者など選手以外のコース内、球場内の立ち入りはご遠慮いただくなど、感染防止策を徹底した。
- ・1月に入って、全中のスキーやスケート、アイスホッケーの大会は全国大会が実施される予定だったため、スキーは県予選を実施したが、緊急事態宣言が発出されたことで、急遽、全国大会の方は中止になった。県代表に選ばれていた生徒には残念な結果となったが、生徒の安全を守るためなので仕方のない判断だった。
- ・感染防止を目的として実施した男女別開催だが、思ったよりスムーズに進行ができ、こういうやり方もよいという意見がでるなど、今まで当たり前に行っていた大会運営を見直すきっかけにもなった。一方で、会場を分散させて実施することは、会場確保の困難さや経費の増大という課題も生じている。
- ・生徒も部活動の集大成である大会があるかないかは不安に感じているところであり、まずは、実施すること、を目標に、どのように感染防止策を講じれば実施できるか、今後も検討を進めて行きたいと考えている。

(委員)

- ・先日、大学の共通テスト会場では、厚労省も紹介している二酸化炭素濃度測定器を使用した。各教室に測定器を置いたところ、受験者が教室に入るとすぐに、800ppm、1,000ppmと数値が上がり、すぐに窓を開けて換気を行った。
- ・日本レクリエーション協会の資料によると、バトミントンコート1面で30名程度でボッチャを実施した場合、開始直後に800ppmとなったが、2箇所窓を開けることで400ppmまで数値が下がったというデータがある。
- ・換気の効果や基準は目に見えづらいものであるので、こうした、具体的に測定して数値化されるものを活用することで大会参加者に安心してもらえるのではないか。

(委員)

- ・直接的にスポーツの場面ではないが、高齢者たちの活動の場となっている公民館は昨年8月まで使用が制限されており、現在も、利用にあたっては、チェックリストの提出や検温、消毒、ソーシャルディスタンスなど感染防止策を講じる必要が生じている。ただ、そうした感染防止策を確認するための作業も、今では集まる高齢者たちのコミュニケーションのひとつになっている。
- ・高齢者の多くは、自粛生活によって足腰が弱っていると感じる。健康寿命の延

伸のためにはスポーツが重要であると痛感しているところである。

(委員)

- ・中高生の大会については、県内だけで実施されるものや、無観客で実施されるものについては、子どもたちのためにも開催してもいいのではないかと、という印象である。一方で、都道府県をまたいだ移動が生じる全国大会などは慎重にならざるを得ない。
- ・オリンピックの開催がどう判断されるかが、全国規模の大会の開催判断にも影響すると思われる。
- ・わたし自身、プールに通っているが、マスクの着用や、入り口と出口の分離など徹底した対策が取られていたが、最近では感染者が減ってきたせいか、若干の緩みを感じる。
- ・自粛生活が長引いており、我々の生活にもストレスが生じているが、まだまだコロナの影響は長期に渡るとと思われるため、子どもたちのために、なんとか大会が開催できる方向に前向きな検討が行われることを望んでいる。

(委員)

- ・春の緊急事態宣言後、大学で部活動再開を検討した際に、感染リスクの低いものとして、換気を行った状態でのバレーボールと屋外競技である女子長距離の2種目だけ再開を認めた。
- ・秋田のスキー国体に行く予定にしていたが中止となった。秋田県はコロナに対して非常に厳しく向き合っていて、大学教員の事例だが、秋田県から東京に出た場合、戻った際には2週間の自宅待機を求めている。そのくらい厳しい制限を課すことも今は大事かもしれない。スポーツの場面においても、ウィズコロナではなく、ゼロコロナを目指さなければならない。
- ・東大の児玉龍彦教授がどうしたらコロナを防げるか紹介している。高齢者施設ではPCR検査を徹底的に行ったり、子どもの施設では、本人は無症状のことも多いが、1人でも出たらその周辺にPCR検査を行って、一つ一つ感染の枝葉をつぶしていくことで収束を目指せるのではないかと、紹介されている。
- ・広島県の湯崎知事が大規模にPCR検査を実施することはよい取組と感じた。無症状の子どもが家に帰って祖父母に移してしまう、ということを防いでいくことで、結果的に早く収束するのではないかと思う。

(委員)

- ・スポーツ界に与えたコロナの影響は大きかったが、そのことによって、歴史や宗教などの壁を超越して感動や勇気を与えてくれるスポーツというものの価値を再認識することにも繋がった。
- ・スケートやアイスホッケーの岐阜、愛知国体は実施されたわけだが、「する」「みる」「ささえる」という観点からどのような感染対策がなされていたかご紹

介したい。

- ・まず、「する」という競技者の観点からは、コロナの感染拡大が問題になり始めて1年経過しているためか、マスク、検温、ソーシャルディスタンスの確保という、個人個人の責任下で行う基本的な対策は、しっかりと徹底されていた。一方、チームや競技団体としての対策には対応が分かれているものも見受けられた。
- ・「みる」という観客者の観点では、入場者の人数制限や無観客での実施、応援は拍手のみで大声禁止、観客や関係者と選手のゾーニングという対策が取られていた。競技の様子を動画配信する試みも行われていた。
- ・「ささえる」立場である、大会関係者や運営ボランティアについては、マスクやフェイスシールドの着用のほか、席や器具用具を使用するごとに消毒するなどの対策が取られていた。また、報道や選手への取材についても、人数制限やリモートで行うなどの対策が取られていた。
- ・このように対策を徹底することで、コロナ禍でもスポーツ活動を止めないことができると感じた。本県でも競技団体と情報共有しながら進めていきたい。

(委員)

- ・前回の審議会が開催された8月頃までは、スポーツの場面に限らず、入学式や卒業式も中止されるなど、あらゆる活動が止まってしまったが、こういうところに気をつければ大会が開催できるとか、こんな場面では特に気をつけなければならないなど、だんだんと情報が蓄積されてきた。
- ・春高バレーにおいても、男子の優勝チームでは、クラスターが発生したが、それが、スポーツそのものの場面において感染してしまったのか、それとも、それ以外、宿泊や食事の場面で感染したのか、分析を行うことで、今後、スポーツの大会を実施する上で有益な情報となる。
- ・例えば、薬についても副作用のない薬はない。副作用を上回って作用が有益である場合に服用するわけだが、スポーツにおいても、蓄積されてきた知見をもとに、スポーツというかけがえのない活動を止めないためにどのような工夫ができるのか、この審議会の場で議論することで、貢献していけたらと感じている。

## 5 報告事項 資料3

### (1) 第3次晴れの国おかやま生き生きプランについて

#### ■事務局説明（スポーツ振興課長）

資料に沿って説明

### (2) おかやまマラソンについて

#### ■事務局説明（環境文化部参与）

資料に沿って説明

#### ■質疑

(委員)

・資料P5の図を見ると、Cスタから5,100人出発する形になっているが、ランナーのブロックを区切っているが、結局は、国体筋に出る赤色の動線部分で狭くなるので、密が避けられないのではないか。

(環境文化部参与)

・15分かけて、ブロックごとに時間差でスタートするオペレーションを予定しており、密にならないよう留意したい。

(委員)

・時間差を設けたとしても、やはり、赤色の動線部分には一時的に人が集中してしまうことが懸念される。よく調整してもらいたい。

(環境文化部参与)

・スタートの調整は係員をつけて、密にならないよう誘導する予定である。御意見のとおりしっかりと調整して実施したい。

## 6 閉会

○文化スポーツ振興監あいさつ

- ・本日は貴重な意見を頂戴し、感謝申し上げます。
- ・スポーツ推進計画の目標年度は再来年となっているが、コロナで足踏みを余儀なくされている項目もある。本日いただいた御意見をもとに、県としてもコロナ感染症の影響を乗り越えて、一層のスポーツ振興に取り組んで参りたい。

以上